

2023年9月12日

読売テレビ製作映画「お引越し」4Kデジタルリマスター版  
ベネチア国際映画祭 クラシック部門「最優秀復元映画賞」受賞



イタリアで8月30日から9月9日に開催された第80回ベネチア国際映画祭のクラシック部門(Venice Classics)で、読売テレビが製作した相米慎二監督作品「お引越し」の4Kデジタルリマスター版が「最優秀復元映画賞」を受賞しました。

「お引越し」4K デジタルリマスター版は1993年の公開から30周年に当たる今年、35mmオリジナルネガフィルムから4K解像度によるスキャンを行い、デジタルリマスター作業を実施したもので、今回のベネチア映画祭で世界初上映されました。

授賞式が開催された9月9日は、2001年に53歳で亡くなった相米監督の命日で、製作から30年、死去から22年が過ぎ、相米監督の作品が改めて世界で評価されたこととなります。

2012年に設立されたクラシック部門には過去1年間に復元されたクラシック作品の中から特に優れた作品が選出されており、今年も、「お引越し」のほか、「父ありき」(1942年、小津安二郎監督)、「エクソシスト」(1973年、ウィリアム・フリードキン監督)、「天国の

日々」(1978年、テレンス・マリク監督)、「ワン・フロム・ザ・ハート」(1982年、フランシス・フォード・コッポラ監督)などが選ばれていました。日本映画の「最優秀復元映画賞」受賞は、昨年の鈴木清順監督「殺しの烙印」以来2年連続です。



ベネチア国際映画祭 メイン会場



「最優秀復元映画賞」のトロフィー

世界初上映となった9月3日のワールドプレミア上映では、相米監督の作品の魅力について同映画祭で銀獅子賞を受賞した濱口竜介監督が、「生命力が溢れていて、アイドル映画ならその枠組みをアイドルたちが突き破ってしまう瞬間がある。この作品では田畑智子さん演じる子供が変わっていく瞬間が映っており素晴らしい」と紹介しました。

上映会では多くの来場者が、田畑智子さん演じるレンコをはじめ作中の子供たちのお茶目な言動に笑い、大きなリアクションを取っていたほか、レンコが親の離婚を受け入れていくシーンに涙を流していました。美しい映像と音声で復元された作品は国境を越えて観客の心に届き、エンドロールでは会場は大きな拍手に包まれていました。

日本で30年前に劇場公開され、カンヌ国際映画祭「ある視点」部門にも選出された映画「お引越し」。4K デジタルリマスター版としてよみがえり、世界に先駆けフランスで今年10月、劇場公開される予定です。



授賞式の会場と贈呈されたトロフィー



## ■ 作品情報

「お引越し」

公開：1993 年

出演：中井貴一 桜田淳子 田畑智子 笑福亭鶴瓶 他

原作：ひこ・田中「お引越し」

監督：相米慎二

脚本：奥寺佐渡子 小此木聡

製作 読売テレビ

## 【あらすじ】

明るく元気な京都の小学年 6 年生、レンコ。父ケンイチが家を出て、母ナズナとの二人暮らしが始まった。ナズナは新生活のための規則を作るが、変わっていきこうとするナズナの気持ちかわからないレンコ。レンコは、離婚届を隠したり、自宅で籠城作戦を決行したり。さらには、かつて家族で訪れた琵琶湖への小旅行を勝手に手配する……。離婚目前の両親に挟まれた、多感な少女の心の成長の物語。

本作は相米監督の 10 作目で、田畑智子のデビュー作。



© 読売テレビ放送株式会社